HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

日本のDoHaD の原点は沖縄にある

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 日本DOHaD研究会
	公開日: 2019-01-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 安次嶺, 馨
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003452

DOHaD 研究（ISSN 2187-2597）
2018 年 第 7 巻 第 1 号　9 頁

教育講演 2

日本の DoHaD　の原点は沖縄にある
Okinawa is the basics of DOHaD in Japan

安次嶺　馨
沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団
Kaoru Ashimine
University of Hawaii Postgraduate Medical Education
Program at Okinawa Chubu Hospital

１　戦争・飢餓と DOHaD

近年、戦争や食料生産の政策破綻に伴う飢餓によって、生活習慣病が惹起されることが知られている。ナチスドイツのオランダ包囲作戦による Dutch famine（1944-1945）、レニングラード包囲作戦（1941-1944）、中国の大躍進政策の失敗に伴う飢饉（1959-1961）などがある。これらの事例は、quasi-experiment として疫学研究の対象になっている。わが国では第 2 次大戦終末、沖縄県の地上戦で多くの住民が死亡（県民約 60 万人中 15 万人）した。今日でも、戦争に伴う飢餓が県民の健康状態に大きな影響を及ぼしている。

２　長寿県転落の軌跡

１）平均寿命の推移：1980 年、1985 年は男女とも全国 1 位であったが、2015 年には男性 36 位、女性 7 位となった。この凋落傾向は今後も続くと予想される。
２）年齢階級別死亡率の推移：1944 年以後の出生世代の死亡率は全国平均より高い。戦後生まれ世代の死亡率のピークは 1959～1974 年生の世代である。この時期は、海外から高脂質の肉加工食品が大量に輸入された時代に一致する。Dutch famine は飢餓の期間が 6 か月と短い。沖縄の場合は戦争前、中、後と長期にわたって、栄養状態が飢餓から徐々に脂肪過多というアメリカ型の食生活に変化した。その点では、レニングラード、中国の飢餓の状況により近いと考えられる。

３　沖縄県民の生活習慣

１）食生活：戦前の主食はイモであったが、戦後は輸入米が普及し、主食転換した。1960 年以降、海外からの肉加工食品が大量に輸入された。
２）車社会：鉄軌道がなく、自家用車が早くから普及した。沖縄県の 1 世帯あたり自動車保有台数は全国より多い。
３）運動：平成 28 年の調査で、県民の一日あたりの歩行数は全国比 90%。

かつて、日本一貧弱な医療状況の中で、沖縄県は長寿日本一の座にあった。しかし、全国

水準に達した医療環境にある現在、生活習慣病による死亡率は上昇し、平均寿命が他県より短くなった。これは、食生活習慣が全国より早くアメリカ化してきたためと考えられる。沖縄がたどってきた道は今、日本全体がたどる道でもある。

【略歴】

学歴・職歴：
1967 年　鳥取大学医学部卒業
1969 年～71 年　沖縄県立中部病院小児科研修医
1971 年～74 年　シカゴ市マイケル・リース病院小児科レジデント
1976 年　米国小児科専門医
1987 年　ハワイ大学医学部小児科臨床教授
1999 年　琉球大学医学部小児科臨床教授
2003 年　沖縄県立中部病院院長
2006 年　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター院長
2008 年　　同　　定年退職
2011 年　沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団デイレクター

専門領域：
小児科学、新生児学

所属学会：
日本小児科学会、日本小児保健学会、日本新生児成育学会、日本周産期新生児学会、
日本小児科医会、日本小児救急医学会、日本小児感染症医学会、日本禁煙科学会、
日本小児禁煙研究会、日本 DOHaD 学会